

非定点観測

写真学科
吉野弘章

Non-Fixed Point Observation

Department of Photography
YOSHINO Hiroaki

写真表現に「定点観測」という手法がある。それは、カメラを固定して、撮影対象あるいは構図など撮影条件を定点化することにより、その条件下での経時変化などによる差異情報を明確化し、比較・分析し易くする手法である。

しかし今回の作品群は、まるで「定点観測」のように同じ構図であるが、決して「定点観測」の手法で撮影されたものではない。たまたま同じ被写体に対して、たまたま同じ構図でシャッターを切った作品を集めたものである。

デジタルカメラを使い始めて10年の月日が経ち、その区切りとして2011年3月に個展を開催した。デジタルカメラとフィルムカメラの大きな違いの一つに、デジタルカメラでは撮影した日時が正確に画像データに記録されるという点がある。最初に自分のデジタルカメラを購入して最初の1枚を撮影したのは2001年3月2日のことなので、展覧会オープン当日の2011年3月3日は、奇しくもデジタルカメラを使い始めてちょうど10年が過ぎた日に当たった。個展を開催するために、この10年間に自分が撮影した約5万点の画像データを整理してみると、同じ場所で同じような構図で撮影している写真が多くあることに気づかされた。今回の作品群は、その中から特に構図が似通った写真を対比している。

写真を撮るという行為において、撮影者は被写体に対して何らかの関心を持ち、何らかの決断を下してシャッターを切る。同じ撮影者が、無意識のうちに同じ被写体に対しての関心を持ち、同じ画角のレンズを使用し、同じ視点、同じ構図でシャッターを切るということがあっても何ら不思議ではない。今回の作品群の場合、完全に無意識に同じ場所で撮影したというわけではなく、以前にもそこで撮影したという記憶、意識があったことは確かである。また、撮影できる場所が限定され、周りの障害物などにより構図が既定されてしまった可能性もある。しかしそれでも、まるで「定点観測」と見紛うほどの2点1組の写真は、写真が無意識的、身体的表現であることを強く感じさせる。

そして、これらの写真に正確な時間の記録が伴う時、写真が変わりゆく世界と記憶を共鳴させる記録装置であるということに気づかされるのである。



上大崎

2001年12月19日 15:26



2002年12月09日 10:25



宮崎

2010年8月4日 7:27



2010年8月4日 8:39



目黒

2007年 2月24日 10:57



2011年 2月21日 15:36